※令和４年度以降入学生用

学校番号	1014

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	生活美術	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主作成教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生活美術は芸術クリエイト系列の美術領域の科目で、美術鑑賞と合わせて履修する。
・生活美術では、美術Ⅰ・Ⅱではやらない領域の弥縫を含めた作品を制作することによって、生涯にわたり美術を楽しむ心情を養う。
・学習の到達度は、授業への姿勢、アイデアスケッチなどの提出物、作品の完成度で評価する。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

美術の授業を通して美術に関する基礎的・基本的な知識を身に着けながら、どう表現するか・どこまで作りこむかといった課題と向き合う力・判断力・表現力、また主体性を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・各領域の画材や道具の特性を理解し、正しく扱う知識を身に着けている。 ・美術、工芸に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に着けている。	・自分の表現したいものをイメージし、作品で表現することができている。 ・主体的に形や色を判断・決定し、試行錯誤を繰り返しながら、よりよいものを作ろうと自分の作品と向き合うことができている。	・指導者の示す課題をよく理解するよう努めている。 ・作品制作に置いて自分の考えを持ち、計画的に制作に取り組んでいる。 ・自分の作品を完成させることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間	はめ込み絵	・アイデアスケッチ ・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	授業態度 アイデアスケッチ
前期期末	掛け軸を作ろう	・アイデアスケッチ ・下描き ・着彩 ・土台組み立て	a a:道具や材料の特性を理解し正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	授業態度 アイデアスケッチ
後期中間	キュビズム自画像	・アイデアスケッチ ・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	授業態度 アイデアスケッチ
後期期末	ピクセルアート	・アイデアスケッチ ・下描き ・着彩	a:道具や材料の特性を理解し正しく使うことができる。 b:構図や配色などを試行錯誤しながら、自分の表現したい意図が伝わるように工夫している。 c:主体的に自分の作品と向き合い、課題を完成させることができる。	作品	作品	授業態度 アイデアスケッチ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度